

## ともに旅する教会をめざして 京都教区の10の問いかけ

「シノドスへの歩み」とは「提言をまとめ、提出すること」ではありません。分かち合うこと、特に聴くこと、耳を傾けることこそがシノドスの教会のあり方です。京都教区の10の問いかけを、時々振り返ってみてください。

広報委員会

### 1. 旅の同伴者

皆さんの教会で、「わたしたちの教会」というとき、誰がその仲間でしょうか。逆に、どういう人、またはグループが、教会内外で、取り残されているのでしょうか。

### 2. 聴くこと

教会の内部で、また教会外の人々と、わたしたちの教会は、それぞれ誰に対し「耳を傾ける」必要があるのでしょうか。何が、耳を傾ける助けと妨げとなるのでしょうか。

### 3. 声に出すこと

わたしたちの生活の中で、また地域社会や団体の中で、福音の価値を公に表明する場面がありますか。そのために、何が助けと妨げになるのでしょうか。また社会に対して、誰が教会を代表して発言しますか。

### 4. 祝うこと

祈りと典礼において、信徒を含め、信者全体は、どのように参加しているのでしょうか。参加は広がっているのでしょうか、後退しているのでしょうか。

### 5. 宣教における共同責任

皆さんの教会では、信仰教育や社会での奉仕活動の計画は、だが、どのように決定しているのでしょうか。誰が計画の実施を担っているのでしょうか。その人たちは、どのように

選ばれ、どのような養成を受けていますか。それ以外の人たちは、彼らを十分に支援していますか。

### 6. 教会と社会における対話

皆さんの教会では、そのビジョンや方針はどのように話し合われ、決められていますか。近隣の教区、地域の修道会、信徒団体などと、どのような対話と協力をしているのでしょうか。信者以外の一般の人々と、どういった対話、協力の経験がありますか。彼らから、どのようなことを学んでいますか。

### 7. 他のキリスト教諸派とともに

皆さんの教会は、他のキリスト教諸派の兄弟姉妹とどのような関係性をもっていきますか。どういった分野に彼らは関心があるのでしょうか。彼らとの対話の実りと妨げはなんでしょうか。

### 8. 目標設定と実現での責任と参加

教区や小教区の目標設定とその実現のためのプロセスは、誰が、どのように決定していますか。チームワークと共同責任は、どう実践されているでしょうか。信徒の参加はどうでしょうか。教区レベルでの共同決定・共同責任を実践する機関はありますか。その実りと妨げは何でしょうか。

### 9. 識別することと決断すること

皆さんの教会の決定は、どのような手順と方法で決定されているのでしょうか。共同での識別が行われているのでしょうか。どうすれば、それらは改善できるのでしょうか。透明性と説明責任を、どのように促進できるのでしょうか。

### 10. 「シノドス性」(ともに歩むこと)の中で自己形成すること

皆さんの教会の中で責任ある役割を担っている人々が、互いに耳を傾け合い対話しながら、「ともに旅をする」教会がさらに成長し、共同で識別と決断ができるようになるため、お互いにどのような養成ができるのでしょうか。何が妨げになるのでしょうか。